


SETTING THE STANDARD



TEKLYNX®

CODESOFT® V.9

CODESOFT V9 簡単操作マニュアル
～データベースマネージャ編～

 **BRADY** 日本ブレイディ株式会社
WHEN PERFORMANCE MATTERS MOST

目次

1	データソースの作成.....	3
2	データベースマネージャーの起動と接続.....	4
3	クエリーの作成.....	4
4	印刷.....	7
5	注意事項.....	10

ここでは CODESOFT6 に付属していたバッチ印刷マネージャーと同等の印刷を実現する方法を説明します。

バッチ印刷マネージャーでは、印刷するラベルファイルを自動的に変更しながら印刷を実行することができました。データソース内でラベルファイルを定義することにより、このデータはAラベル、このデータはBラベル、というようにレコード毎にラベルファイルを切り替えて印刷することができます。

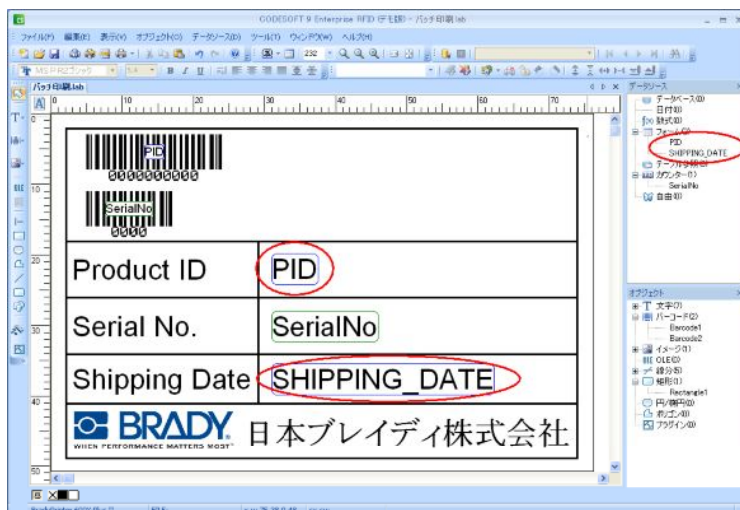
1 データソースの作成

- ① MS-Access、または MS-Excel でデータソースを作成します。フィールドには「ラベルファイル名」、「印刷枚数」等のフィールドを追加します。フィールド名は旧バージョンのような「@LABNAME」、「@SERIALQTY」である必要はありません。

The screenshot shows an Excel spreadsheet titled "Microsoft Excel - バッチ印刷.xls". The active sheet is named "LABEL_FILE". The data is as follows:

	A	B	C	D
1	LABEL_FILE	PRINT_CNT	PID	SHIPPING_DATE
2	label1.lab	1	A000001	2011/04/07
3	label2.lab	2	A000002	2011/04/08
4	label3.lab	1	B000001	2011/04/09
5	label4.lab	2	B000002	2011/04/10
6	label5.lab	1	C000001	2011/04/11
7				
8				

例では「PID」と「SHIPPING_DATE」という2つのフィールドが追加されています。ラベルファイル上にはこれら2つのフィールドに該当する変数を作成してください。(該当変数がなくてもエラーにはなりません。)



2 データベースマネージャの起動と接続

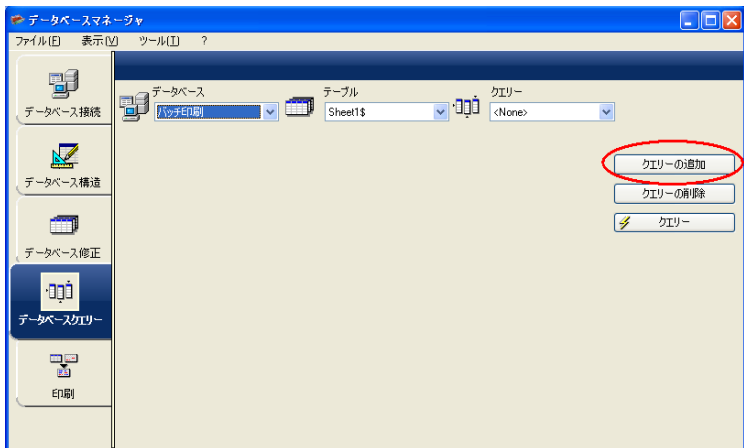
データベースマネージャを起動し、「ファイル」メニューの「開く」を選択します。

表示されたファイル選択ダイアログボックスで希望するデータベースファイルを選択します。

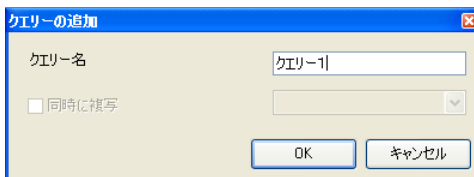
3 クエリーの作成

必要に応じてクエリーを作成します。必要ない場合は「4 印刷」へ。

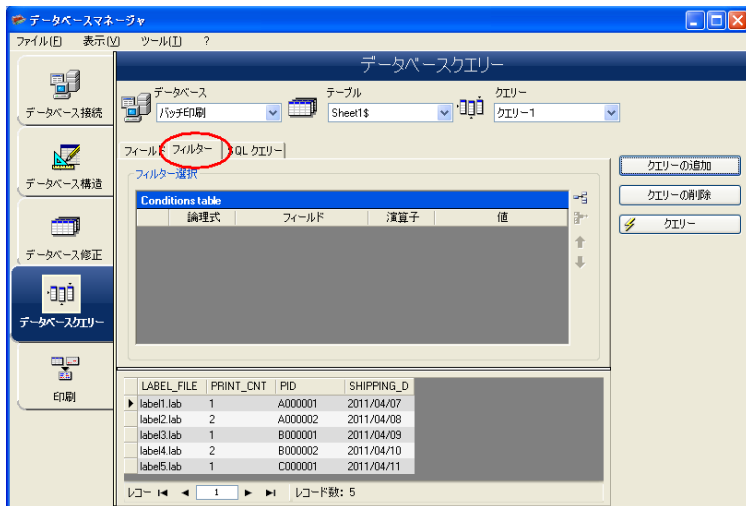
- ① 「データベースクエリー」タブを選択します。
- ② <クエリーの追加>ボタンをクリックします。



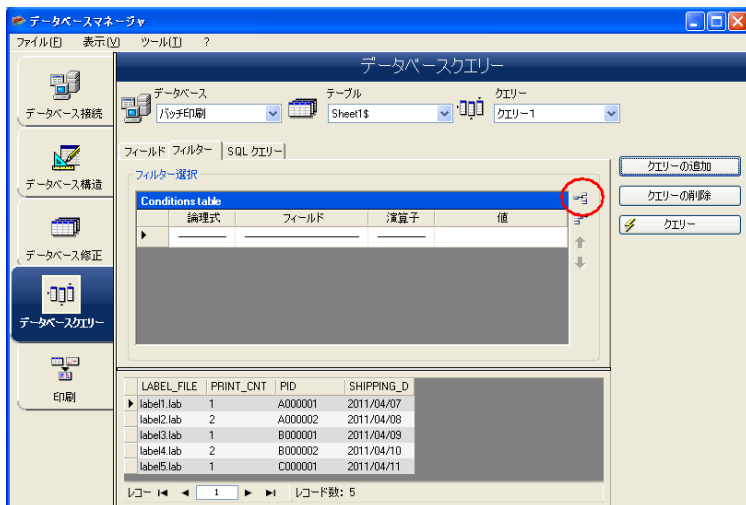
- ③ 「クエリーの追加」ダイアログボックスに「クエリー名」を入力し、OK ボタンをクリックします。



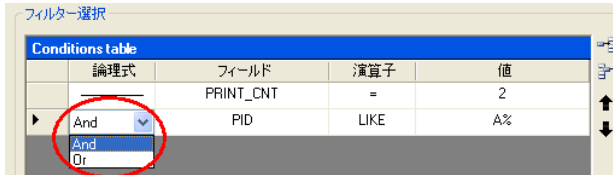
- ④ 「フィルター」タブを選択します。



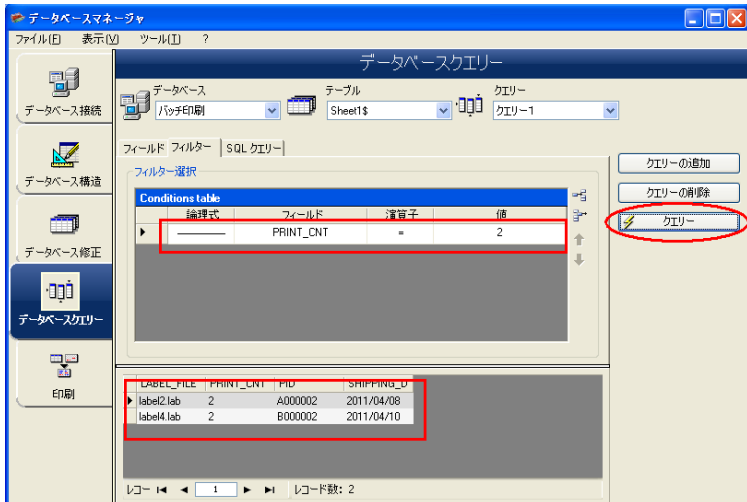
- ⑤ <レコードの追加>ボタンをクリックします。



- ⑥ 条件を設定します。複数の条件を指定する場合は⑤、⑥を繰り返します。複数条件を指定する場合は、それぞれの条件を AND 条件とするか、OR 条件とするかを指定します。



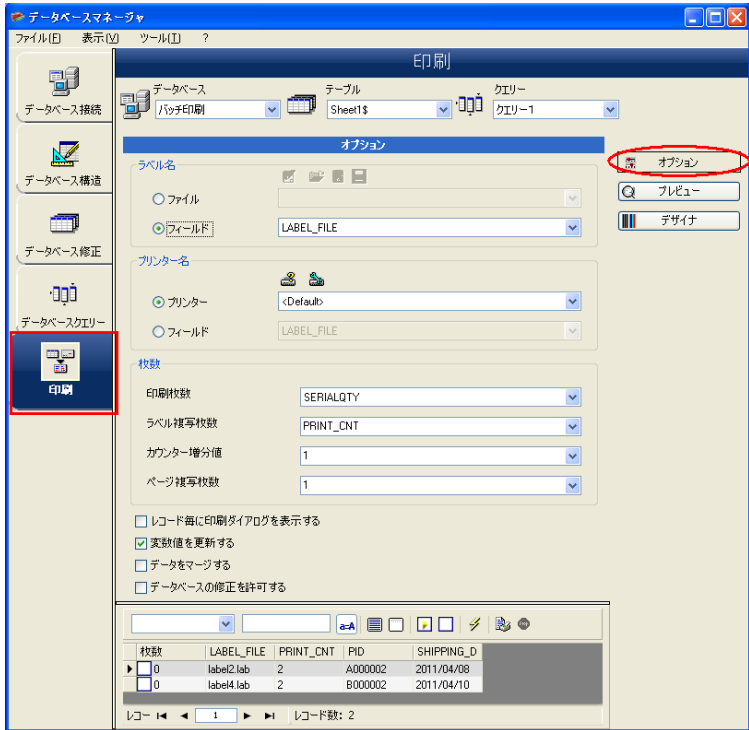
- ⑦ <クエリー>ボタンをクリックします。



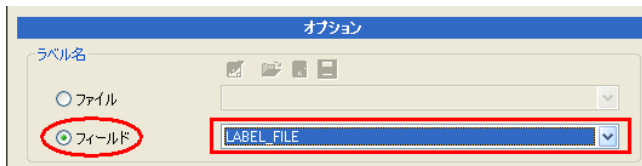
設定したフィルターにより、データが絞り込まれます。

4 印刷

- ① 「印刷」タブを選択し、〈オプション〉ボタンをクリックします。



- ② 「ラベル名」グループで「フィールド」を選択し、コンボボックスから「LABEL_FILE」を選択します。これは『データベースで定義している「LABEL_FILE」フィールドのデータをラベルファイル名として使用する』ということを示しています。



- ③ 「枚数」グループで「カウンター増分値」のコンボボックスから「PRINT_CNT」を選択します。これは『データベースで定義している「PRINT_CNT」フィールドのデータをカウンター増分値として使用する』ということを示しています。
 （「印刷枚数」欄は画面下グリッドの「枚数列」の値をどのように使用するかを指定する項目です。通常は「SERIALQTY」を選択します。）

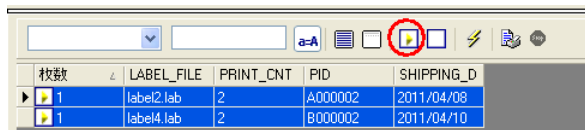
- ④ ラベルへエクスポートするデータ項目が存在する場合は、「変数値を更新する」にチェックをつけます。チェックを付けない場合は、データベース内のデータで反映されず、ラベルファイルのローカル変数値で印刷されます。

※「データをマージする」にはチェックを付けません。これはラベルファイルにデータベースがリンクされている場合に効果を発揮します。（ラベルに対するマージ印刷を実行します。データベースがリンクされていないラベルの場合、このオプションにチェックを付けても1枚も発行されません。）

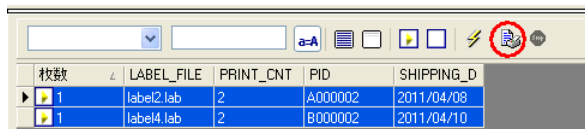
- ⑤ ツールボタンの「全てを選択」をクリックします。

枚数	LABNAME	PRINT_CNT	PID	SHIPPING_D
0	label2.lab	2	A000002	2011/04/08
0	label4.lab	2	B000002	2011/04/10

- ⑥ ツールボタンの「Check records」をクリックします。

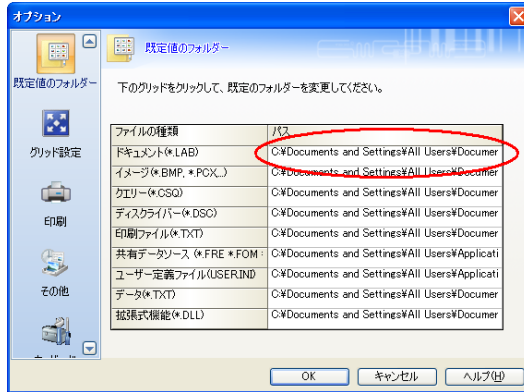


- ⑦ ツールボタンの「Print records」をクリックします。



5 注意事項

- データソース内の LABEL_FILE フィールドに記述したラベルファイル名がファイル名のみの場合、CODESOFT で設定されている規定のフォルダにラベルファイルが存在する必要があります。



「ツール」-「オプション」メニューから【オプション】画面を表示し、「規定値のフォルダ」タブを選択してご確認ください。

LABEL_FILE フィールドにフルパス付きでラベルファイルを記述した場合は、ラベルファイルはどこにあっても構いません。

以上